

すずむし

Vol. 2, No. 4

1952年4月

倉敷昆虫同好会

蝶類觀察雑録 (III)

Vanessa 属 2 種の日週活動に関する一習性

廣瀬義鶴

Vanessa 属特にアカタテハ *Vanessa indica* Herbst の日週活動の一習性について 15-X-1950 等者が那智郡山手村福山山頂に於ける異常な観察の一例を報告する。当日は快晴秋晴れの良好なる一日であつたが等者等が福山の頂上をさわのものは正午過ぎであつて秋も深いとはいへ衣服にじっとりとするものを感じさせた。その時間に於いて山頂附近にて自身又は密集した蝶はメアゲハ、ツマグロヒタウモシ、ウラナミシジミ、タケヨウ、ツマグロタケヨウ etc. 秋を飾るものが多かつたが *Vanessa* のものは全然その姿を見ることが出来なかつた。午後 2 時過ぎに至つて等者はようやく松の樹幹に静止中のアカタテハ 1 羽を網にした。等者の休息して居る前の石上或いは岩上にアカタテハの個体が少數出現を見たのはせう午後 3 時頃であつて、その頃からヒメアカタテハ *Vanessa cardui* Linnaeus が一見地域外を飛翔し巣の巣上に多く飛来停止するのを認めた。以後両種の数は急増し「秋の日はつちべ落し」とてあたりにはたゞがれが追つて来たが両種は依然その活動力は旺盛なるものであつた。等者等は亟に密集に努めたが両種はいづれも敏感であるのでアカタテハの頭ヒメアカタテハ数頭を捕えたに過ぎなかつた。夕空をアカタテハの雄同士の闘争的交尾が何回も繰り返され石上には常に一頭が静止した。やがて日没を追つたので倦怠感にして下山する。途中又々他所で太陽の淡い霞の中を走つる金の匁がり巣上で自己も有型化を示しているアカタテハを観察、甚だ興味深く思つた次第であつた。この活動は等者が *Vanessa* 属 2 種の落時に於ける日週活動の前段と重なるもので取扱ふといえは、カラレハシイガ復味ある習性であることを思う。しかし等者は被立(被煙ニ

*

本種がアカタテハ時と同様自己占有型性を示すことには本文 Vol. 1, No. 9 に述べた。同属のものが同定性占有することには興味深い。

2 (28)

昭、1951 日本蝶類誌、P.76、ヒメアカタテハ *Vanessa cardui* Linne の
塊に次の様な一筆を見出し過日の觀察がこれに以たもので
ば良かろうかと思つて居る次第であつ。すなわち、本種が
「朝夕の黎明時にモ飛翔する事など興味ある事実が知られ
てゐるが公風ではカ、も習性の有無は確められていない」と述べられて居る。
この習性はヒメアカタテハのみならずアカタテハに於いても *Vanessa* 属一般に於
ける習性かのを知れないので、尚福山に於いてはヒメアカタテハは常に午後からで
なければ出現しないのは事實で *Vanessa* 属の日通活動はかなり複雑なものと思わ
れる。以上甚だ興味ある事実であるのでこゝに記録し前回の発見と過去の記憶を
取次ぐ次第である。(20-IV-1952)



—虫の飛翔習性に就いて (1) —

西村公夫

Lepidoptera の蛾の類は晝間、夜間活動のものがあり前者がその大部分を
占めている事は周知のとおりである。その飛翔方にそれぞれ種によつて日通活動
や晝性、夜性等を果すものである。後者の場合に於いて特に私自身觀察出来
た事柄に就いて述べてみる。原則に夜間灯火に誘來するとは即ち趨光性
であつてそれの強いものと弱いものとによつてその誘來習性を異つてくる。料に
よつて大別する事出来るが更に亞科、属、種まで細く割つて行くと色々ながら
差が出てくる。これらを列記す。① 灯火に向つて一直線に飛來するもの。
② 灯火に向つて左振舞を正面からむらるもの。③ わざわざ附近をぐるぐる
まわりながら飛ぶものの。④ 上から螺旋状で飛ぶもの。⑤ 下草からはうよう
にして飛ぶものの。⑥ 近くに来ただけで灯光は近づかないもの(地上の場合、
樹立の場合)。⑦ 正面から緩に回つて近づくもの。⑧ 遠くに停止して下を仰
ぐて近づくもの。⑨ 一たん灯火に誘來して少しはなれた所に逃げるもの。等々
の場合がある。灯火に誘來しても附近をぐるぐるのや、じつとしているものなど
はそれぞれ種によつて大差がある。これらの例で概要的に同じ飛翔習性を持つもの
はズメガ科である。下の方からはうようになづくがこれは5番目の一例であ
る。しかし本科は種類が多くほど誘來数が多である。他の科も大体混度が多い、ほ
と誘來数が多い。又飛行の振舞での場合はジョウザンヒトリガこの5番目の例に
それなりと云う。これらも寄天候、環境によつてその習性を異にするのではない

(29) 3

かと思う。又、電球の色によつても個性を異にするのではなかろうか。

…蝶の採集と研究(3)…

…クロタイマイの飼育観察(終)…



永野 弘造

さて、採集はよくして来たが研究の方はあまりしていない。小西城三学生の蝶媒の鱗粉を觀察したり、ナミアゲハの幼虫を飼育したりした事はあるが、記録がないので発表出来ない。又、昨年の夏、クロタイマイ(アオスジアゲハ)の飼育をした。これを記念ではたゞが施系しよう。

○ クロタイマイの飼育觀察

7月23日

産卵 —— 植物の葉へ蝶が来て、木のまわりを激しく飛んでいたが、植物の先にとまり、葉裏の方に尾を上げて産卵、二枚くらいで産び立った。産卵の回をぶらぶらと翅を動かしていた。後から行って見ると、葉の裏に一ミリ半ぐらの青白い卵が生みつけられていた。放てと取つて帰つた。

7月25日 うす青色の卵が黄色になつていた。

7月26日 **3¹化** —— 蝶はなくなつてあり、二ミリぐらの黒色の一齢幼虫がいた。卵のカラを見えないのと、3¹化する時幼虫が食べだらひ、やわらかい新芽ばかり食う。

7月29日 **脱皮** —— 朝見ると黒色の一齢幼虫は成長して体長五ミリのちめ色をした二齢幼虫となつていた。

8月3日 **脱皮** —— 第二回目の脱皮をしていた。分め色からあざやかな顔色となつてあり、ナミアゲハの幼虫と非常によく似ている。固い葉でせよく食べる。体長十五ミリ。(以下次号)

大阪農業研究所 昆虫研究室復活!

大阪農業研究所は今年の四月から今般研究室が同大農業部附屬に轉管された。昨年、本会監修実行昌次博士が府林省農業技術研究所へ御就任後一時閉鎖していた昆虫研究室は同もなく同大農業部附屬農業研究室江安宣氏が研究室初教授となつて十ヶ月ぶりに再開される。同研究室主任には農林省化防農業試験場長補佐、柳山源平農博が着任する予定。前同化は同大教諭室も兼務される見込みである。(H.O.)

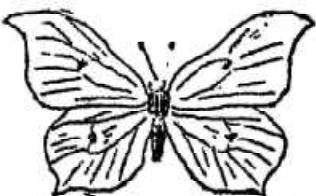


福山でスジボソヤマガタヨウ?を見た

昭和9年9月23日、山寺村の福山に行つた時、中腹でスジボソヤマガタヨウらしい蝶を見た。すなわち、福山の北側のこぶになつてゐる井山(井山城跡)より50m程度に寄つた所を歌を歌ひながら歩いていゝと前方から非常に大きな黄色の蝶がこちらに向つてゆるやかに飛んで来る。見はれぬいたのだな!と感じて直ぐに網をかざしたのだが、その間に蝶はびっくりして急に方向を変え、上の道に飛び去つた。急いで上の道に登つてお々をさがしたのだがもうそれっきりものは見あたらなかつた。だが、その蝶は一目見てだけだからばかりと云ふ程の大きさがタケヨウの約2倍位の大きさで後翅は大変ゆろやかであつた。(モンキヨウの並び方とは全然違つていた。) その時はそれが何であるかわからなかつたのであるが、二日して山梨の友人より5匹のスジボソヤマガタヨウが送られて來た。

それで中の中を見た瞬間、その蝶

は福山で見た
あの蝶とオフ
だく同じもの
であるらしい
ことがわかつ (スジボソヤマガタヨウ)
た。本種は山地には木山居らもの種
であるが、平地では稀らしい。おそらく鳥獣附近に今まで記録されていな
いであらう。同好会講義の深川園在
住む。ついでにその日、猪首側中腰で
アカマダラ2匹を見出したことをお
知らせする。(K. MIZUNO)



黒田産甲蟲雑記(I)

1) アカマダラフガホ *Anthracophora rusticola* BURMEISTER、本種は全国的に見て少ない種で従来倉庫地方に於いては鶴形山阿波山をその生地に数えられ過ぎなかつたが猪首村畠田に於いても1951年秋に採集した本種一頭を採集した。レガレ本種は上記鶴形山に於いては少くないようである。

2) ハイイロヤハズカミモリ *Nephelona fuscata* BATES 当地方に於ける本種の標號は先に本誌 Vol. 1, No. 11に小野三氏より若狭された倉敷須磨水門産一頭位のもので稀なものと思われう。筆者第17、1951黒田に於いて稚虫の巣を切断中の本種一頭を採集して居う。

3) ヤホシゴミムシ *Lebia acla-*

guttata MORAIWITZ 本種は限局地
方には普通なものらしいが、当地方で
は友野氏によれば未記載の由であるの
でここに報告したい。鑑定 I-2, 1952
黒田に友野氏と共に「旅館向か」を行
い、泥板岩のくずれ跡がさような箇所
にて越冬中の本種を一頭採集した。本
種と同様頂上部で極めて近縁の *Phasmas*
aterrimus ... *bioculata* が
村木乃至樹皮下の越冬を予想されてい
る^{*}のに對して似非類似。

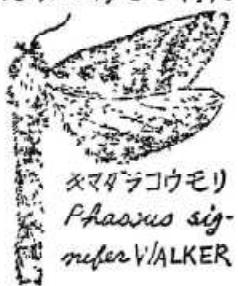
未詳ながら本文を算すうにせり、也
々と御教示下された小野、友野両氏に
深謝の意を表する次第である。(20-III-52)

(廣瀬義躬)

* 小幡謙哉 1948: ラサムシ類の特
殊捕食法三種、生態昆虫 2 (6/1) 571

コウモリガ科の奇習

1949年8月大山の山の家の前の草叢
で夕方日没後あたりが暮時人たつた頃
、何だか変なものが中に浮んでいた
。よく見るとじつと停止したように一
處の場所から動かずに翅を動かしてい
た。丁度ヒラタイガの警位によく似て
いた。早速帽子で捕らえてみると何れ
とコウモリガと矢
マダラコウモリガ
であつた。こんな
ものが、着数匹が
一つの群をなしで
いるので日迴走動



と云える? (西村公夫)

本年のアゲハチョウの初見

今晩は久間なり腹かかづたが運び
に立つておこに立ひました。その奥底でか
ゆくの昆蟲の、特に蝶類在地の初見口
は平均とて遅してかなり遅れています。
この中にあつてアゲハチョウに関して
は他地と比べて比較的早い初花を見出の
で銀吹あざ草と思いこ、に報告してお
く。なお4月9日頃からばかなり進歩
して、ちことせつけ加えておく。

日 時 場 所

3月26日 岡山市津島 国大農芸部附
(小野 洋)

蝶の雑交一例

古い事だが、1941年の初秋(残念な
がら月日がわからぬ)、本島最南端
郡守内村に居た娘の事である。むし暮
く暮っていたが、いつもの様に網を拂つ
てぶらぶら歩きまわって、ちじくの千
を通りか、つぞ所、森又しく交尾飛翔
するモンシロチョウをしらせそのを若見
した。何気なく網に入れたのであるが
、それをとり出して見ると意外にモー
リはスジグロシロナヨウであつた(モ
ンシロナヨウと、スジグロシロナヨウ
早)。何より思つたので、生きたま、
両方共三葉系に入れたのですが、帰
つてみるとどうも死んでいた。最初の方
向は朝へばはがつたの(わからぬが)
こ、に蝶のふくべが少しして、死んでます
。(K. M. 1941)

●先月号船越氏の文を眺めて感じた事●

先月号の船越氏の一大「島嶼の山々を眺めて感じた事」について一寸一寸書きな紙面を渡させていただく。地図上からその昆虫相を眺めることは筆々難儀である。レガシ松の深い経験ではあろうが地図とその昆虫相は他の森がも考え合せると大体に於いて一致するのである。私は黒田の状態のみから考えてQuercusのある地域のかた有望だと述べたがこれは早急であつたと思う。地理に松と赤山だけであつても気温の関係から南方系の標源、その他面白いものがいると思ふ。現に昨日で昭和15年イシガケキヨウが採集されて居り標源は本種及クロコノマキヨウ、モンズアゲハ他発見される可能性がある。これら南方系のものを考えら時、島嶼半島の調查は非常に重要なものとなる。是非其本会員で調査をやって貰いたい。私は島嶼半島全体の近來の詳しい状態は知らないが地図上で昆虫相を眺めると共に松と赤山でその昆虫相を揆づらのを筆々難儀では立かうか。島嶼半島といつても広い。一山へ登って統計を見渡せるものであるまい。九大の江崎博士を島嶼半島の調査は趣味深くその調査を希望して居られる。現状はどうかくとして一応は調査してみる必要がある。今度の調査には是非其貴便の詳しい御人に御案内願いたいものである。船越氏の如く地の理を得られた人の調査を大いに期待するものである。

附記

地図を見てセモク附近一帯は昆虫相が全然面白くない様である
(Y.H) (23/III. 1952)

小黒田峠にて

青野孝昭

しとしと、雨を降らした修景庄が関東東方に去つて二三日曇り日が続いた。今年、小学校四年にせき病がしきりに山へ行こうと言う。その懇心とにかられて自分も山へ行って見る所に行つた。

しばらく行かなかつた小黒田の峠に腰をおろして休む。例年のようによきのアゲハ風のない陽溜りで静かに寝る。世間を離れてこの小さな世界は自らの流転を永く続けることであらう。

一匹のルリシンミが目の前の枯草の上にとまり、それを追つて来た者がネット

を被せた。ルリシジミは飛び立たないで枯草の間に潜んで見えなくなつた。大抵なら蝶は一度飛び上るものが、この現象は面白いと思つた。

危険が迫つた時、能動化をおこながらそれを使用しないのはどういう場合だろう。使用しないと書くより、使用しないと言つた方がよいかも知れない。自分が興味を営んだのはそういう行動が如何なら本態のものに起らぬかとうといふことであつた。

網を被せた時、体が上らないで、下に落ちて枯草などの間に潜むように見える行動は、お正月を除く節の競争を判断によよそのようにも思われる。しかし、それらの部分微妙に見えら行動も、恐らくは昆虫に良く見られる擬死の現象と同様、周囲の影響で余儀なくされ反射運動によよ一種の適応に過ぎないものであつた。瞬間的には空により体の重心を失つて地上に落下するのではないかと想像される。

それは対を角として外界の物理的化學的刺激に応じて、逃避行動が誘起される場合と、前項空手が想起された場合の差はどこから出て来るのだろう。刺激の量的差異によるのか、逃避が始まるところにより、それが第ニの原因となつてか、或はその他行動的原因为条件されて逃避が誘起されるのが自分に分らぬ。この小さな現象にも複雑な因果関係が存在することは容易に想像される。

枯草中に潜伏する想像はかつてベニシジミとウラゲンシジミでも経験したことある。恐らく他のシジミキヨウでもこの習性を持つだらう。ところでベニシジミで経験したのはやはり早着である。ウラゲンシジミの場合は晚脱であった。いずれも比較的修羅のモードのみ経験している。前から注意して観察したわけではなく、わずか江戸しが知らないのではっきりは言えぬ、けれども、これらの事実は環境温度を基準として、この現象と関聯を持つのではないかという大体の暗示を与える。

以上の範囲を精密な実験観察によると統計材料が豊富にあれば、比較的簡単に解説し得られる問題であらうと思われる。

触やアトリカ細などの並んだ真似と並ぶるものも昆虫の擬死と同じ系統のものらしい。ハドソンは人に迷われて迷入した真似をしてまゝ焼け飛んだ例を挙げている。

ルリシジミガ一時の擬死現象と思われる習性を示したが、かけもなく端に捉まつてしまつた。

本能といわれら自身極めて微妙な行動も、こうなつては最早々、何らかの目的意

8(34)

震といつたのを見出しえない。機械的な行動しかとれない彼らに瞬間の情が生ずるのであつた。

■ 倉敷昆虫同好会会報発行!

本誌とは別に、我々の研究発表の場として新しく倉敷昆虫同好会会報(年刊)が生まれた。内容は次のとおり。

- 著 稲葉 雄一郎 行昌次
- 土山のメマトイ 小泉寛治
- 青色螢光器螢灯に対する
2.3ガムシの迴光
性活動とその適度因
子に関する小調査(摘要) 小野 洋
- ニ化蝶虫の休眠
(蝶類等) 中嶋亮次
- 倉敷市周辺の天然記念物 佐藤清明

本会では今度、次の先生方に新たに顧問になつていただきました

の旨ごまことに知らせします。

会だより
 会員者
 金 四大農害虫研究室 小泉寛治
 1-HU弘前女子大学 佐藤清明
 明 四大農害虫研究室 安江安宣
 これで講師先生と四名の方方に顧問
 になつていなついております。尙
 編集部では障害の強化を計画す
 め前に広報義務化に応
 として加つていただき

編集後記

梅の花咲く四月、諸代の机上にNo.4をおとづけます。本号にはこれから興せようかと迷うほど久山涼輔が集りござしました。特におとづれば百廿つで多くなりました。本誌の性格から、ことに短編は大歓迎をいたします。尚、会報の方も開拓なくお目見なさると思ひます。では又五月号まで。(HD)

一 会員諸代に御願い

先の昨年末懇親会席上で承諾しました蝶類の初夏の記録は未熟者でありますのが私の手で整理して居ります。どうか着用のみならず夏季、秋季に亘って又越冬の記録などとし御報告下さる様お願ひ致します。この記録は蝶類日録の結果の上にせ甚々お手がかりますのでどうか絶大なる御協力を仰願いたす次第であります。報告は倉敷市田之上822本報謹躬に願ひます。
(広報義助)

冊	出版社	各号
バ	Vol.1, No.6	1000 8.00
ック	: No.10	15.00
ナ	: No.11	15.00
ン	Vol.2, No.1	15.00
バ	: No.2	15.00
ー	: No.3	15.00
分	譲	10.00 8.00

すずもし 第2巻第4号

昭和27年4月13日 印刷

昭和27年4月13日 発行

編集者 小野 洋

印刷者

発行所

倉敷市河川町

倉敷西小学校理科教室外

倉敷昆虫同好会